

平成19年度奄美サテライト教室開講式

雑誌名	奄美ニューズレター
巻	31
ページ	24-28
別言語のタイトル	The 2007 Amami Access Centre opening ceremony
URL	http://hdl.handle.net/10232/17873

■島嶼スケッチ

平成19年度奄美サテライト教室開講式

去る4月7日（土）、21日（土）に平成19年度奄美サテライト教室の開講式が奄美大島教室及び徳之島分室で開催されました。開講式には、平田隆義奄美市長、勝重藏徳之島町長、大久幸助天城町長、大久保明伊仙町長、その他関係者の皆様、受講生の皆さんをはじめ多くの方がご出席下さいました。



奄美大島教室受講者紹介

奄美サテライト教室は、奄美にしながら、鹿児島大学大学院人文社会科学研究所の正規の授業が受講できる教室です。本研究科では、平成19年度より、奄美大島（奄美市中央公民館金久地区分館）に続き、徳之島（徳之島町生涯学習センター）にもサテライト教室を開設致しました。また本年度より、元環境省自然環境局長の小野寺浩特任教授にも講義（「総合講義－奄美の世界自然遺産と環境政策」）をご担当頂くことになりました。

本年度の奄美サテライト教室受講生は、正規の大学院生2名、科目等履修生14名（奄美大島、徳之島、各7名）、合わせて16名です。開講科目は「奄美プロジェクト研究」を含めて、22科目（昨年度は10科目）を予定しています。当初、徳之島分室では、



小野寺特任教授挨拶（奄美大島）

奄美大島教室で行われている講義をインターネット回線で中継する遠隔講義のみを予定しておりましたが、「総合講義（島嶼論）」（井上晃男特任教授）、「文化人類学特論」（桑原季雄教授）、「人文地域特論」（石村満宏教授）、「福祉社会学特論」（片桐資津子准教授）の4科目を徳之島で開講することになりました。



井上特任教授挨拶（徳之島）

こうして奄美サテライト教室開講式が迎えられましたのも、平田奄美市長さんや徳之島3町長さんをはじめ、地元の多くの皆様のご協力によるものです。あらためまし



徳之島分室受講生による決意表明

てお礼申し上げます。

最後に、平田奄美市長さん並びに徳之島3町長さんからいただいたご挨拶（メッセージ）をご紹介します。

*

平成19年度 鹿大奄美サテライト教室 開講式あいさつ

奄美市長 平田 隆義

平成19年度鹿児島大学大学院奄美サテライト教室の開講式にあたり、一言お祝いを申し上げます。



今年度は、昨年から引き続き受講されます大学院生2名と、科目等履修生5名の皆様に加え、新たに6名の方が、科目等履修生になられたと伺っております。徳之島分室の開講により、受講生の皆様にとりましては、これまで以上に選択の幅も広がった

と聞き及び、嬉しく思っているところです。それぞれの仕事を持ちながら、高いレベルの研究に取り組まれている皆様方の情熱と、高い向学心に、常々、敬服しているところです。皆様方にとりまして、所期の目標が達成され、実り多い一年となりますことを、念願いたしております。

さて、このサテライト教室の開講が一つの契機となり実現いたしました、鹿児島大学と奄美市の包括連携協定の締結から、1年が経過いたしました。この間、平成16年度から調査を進めていただいております、「南西諸島フィールド研究センター」基本構想策定調査をはじめ、内閣府や九州経済産業局が所管する、地域の活性化に向けた、様々な連携事業に取り組むことができました。また、今年度からは、教育学に関する講座も開設され、本土から赴任された小中高校の先生などの、積極的な参加が期待されているところです。

これもひとえに、地域貢献に対する鹿児島大学の熱意と、地域が抱える問題解決にご尽力いただいている、諸先生方の熱意の賜物であると存じます。改めて、皆様に深く感謝申し上げます。

また、本日は、今年度から鹿児島大学の特任教授にご就任されました、小野寺先生にも御来島いただきました。屋久島の世界自然遺産登録にご尽力された、その経験と叡智を、私ども奄美にもご教示いただければ幸いです。

本市は先月末に、合併から1周年を迎えました。新市の一体感のさらなる醸成を図りつつ、市民と行政の協働が今後ますます重要になるものと考えております。

奄美サテライト教室で学ぶ受講生の皆様方は、自己を高めようとする研鑽意欲と、他の模範となる資質をお持ちでございます。これから、学ぶ多くのことを修得され、協働のまちづくりのリーダーとして、市政の

推進に寄与していただくよう、期待いたしております。

最後になりますが、鹿児島大学大学院並びに奄美サテライト教室の末永いご発展と、受講生の皆様と本日ご列席の皆様の、ご健勝とご多幸を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

*

**徳之島の教育維新に
奄美サテライト教室徳之島分室
の開講式を終えて**

徳之島町長 勝 重藏

「徳之島の教育維新に」ということは、この「奄美サテライト教室徳之島分室」の開設により、平成19年度という年は徳之島にとって、かつて多くの先人がこの徳之島から日本の法曹界、学术界、実業界に羽ばたき、好学愛知、積極進取の精神で大活躍した時代の再来のきっかけになる年になるかもしれないという、教育に対する町民の意識改革の契機、機会にしたいということである。また、そうすることが現在の徳之島には必要であると思う。



そのような大きな期待の下、去る4月21日（土）に、鹿児島大学大学院人文社会科学部研究科の「奄美サテライト教室徳之島分室」の開講式が、本年度の受講生5名（7名のうち2名は欠席）と鹿児島大学、徳之島三

長の町長、教育関係者約30名が出席して、地元徳之島町内のホテルで厳粛な中に格調高く、正しく学術の府のイベントに相応しく大学、町当局、受講生の熱い思いの中で行われた。

開講式の中で、飯田泰雄同大学院人文社会科学部研究科副研究科長は奄美サテライト教室及び徳之島分室の開設までの経過、すなわち、分室設置の協定締結とその後の公開講座の実施や地域への説明会開催等についての説明、徳之島分室開設に対する徳之島三町の理解と協力への感謝と共に今後の分室の継続に対する地元の支援への期待を述べた。

また、サテライト教室を担う奄美委員長の山田誠教授は、分室開設の意義や分室の維持のための方策について、地元との連携の必要について述べた。

私は、徳之島三町を代表した祝辞の中で、平成16年度に奄美市において奄美サテライト教室が開設されたことに対して郡民の一人として感謝したい、それと同時に徳之島にも是非開設してほしいという羨望の気持ちがあったこと、そのような中で、平成18年度には公開講座が実施できたこと、分室開設は決まったものの一体何人の受講生が希望してくれるのか、不安があったことを述べた。結果的には、受講生7名を確保し、平成19年度の奄美サテライト教室徳之島分室が無事にスタートしたことに、大きな喜びと同時に関係者各位の努力に感謝の意を表した。それと、このような高度な教育が徳之島で開設される意義として、明治から大正にかけて亀津を中心とする好学愛知の学問追求精神の復活と受講生の生涯学習時代の自己成長だけでなく、徳之島の社会の在り方を考えることができる社会人の育成機関としての機能、さらには、児童生徒、青少年の学問上の目標、生き方のモデルとしても大いに意義があることだと、徳之島

分室の開設の重要性について述べた。

開講式終了後、懇親会を開催し、参加者一同が短い時間ではあったが、分室開設までの足跡や苦労話、これから始まる講義への期待や大学と地元の今後の連携の強化、町民へのPRや啓発の在り方等、この分室開設に対する喜びと今後への期待、徳之島の発展への展望などについて熱く語り合い、親交を深め合うことであった。

本年度のこの徳之島分室の成果を期待すると共に、来年度、再来年度と内容の充実と共に受講生の広がりや成果の地域への波及効果を大いに望むものである。

*

平成19年度 鹿大奄美サテライト教室

徳之島分室開講式あいさつ

天城町長 大久 幸助

鹿児島大学大学院における奄美サテライト教室徳之島分室がこの4月に開講され、今回こうした高等教育の機会が、ここ徳之島において実現できたことに大きな喜びを感じています。それは受講生自身の知識を高めることにとどまらず、指導的な人材育成という意味でも大きな広がりを期待するものであります。



さて徳之島における学びの歴史を紐解いてみると、これまで多くの誇りある人材を生み出した島であります。現在では交通の

便もよくなり飛行機で1時間足らずで徳之島空港と鹿児島空港を結びます。しかし、向学の志に燃えた徳之島の少年たちが本土へ渡り始めた1900年代に入ったころ、海上交通の難所、七島灘の激浪を越えて本土に渡り勉学や技術修得に努力しました。また、戦争中は徳之島は最前線基地となるなど、苦難な時代の中でも島の文化を守り、本土並みの生活改善を目指して、産業発展のために奮闘した多くの先人もいました。こうした先人たちの学びに対する強い思いが今の徳之島の教育や文化、産業の発展に大きな影響を与えたのは言うまでもありません。以前、南日本新聞が連載していた「かごしま人紀行」では徳之島3町で120人を超える多くのすばらしい人材が紹介されております。これは、徳之島の教育的風土に根付いている向学の精神が現在も脈々と受け継がれていることを証明するものです。また、天城町では平成元年にこうした教育的風土を生かして新たな時代に雄飛する島の担い手となる人間性豊かな人づくりと薫り高い文化の町づくりを目指した「天城町教育文化振興の町」を宣言して町民総ぐるみの教育実践を重ねています。

このように徳之島は教育に対する風土に恵まれた島です。サテライト教室徳之島分室の開講で、さらに学びに対する意識が高まり徳之島の発展につながることを大いに期待しているところです。

最後になりますが、離島の高等教育の実現にご理解をいただいた鹿児島大学大学院の関係者各位に厚く御礼を申し上げます。

*

奄美サテライト教室徳之島分室の 開講式に出席して

伊仙町長 大久保 明

「とうとう徳之島にも大学院がやって来

た！」、これが4月21日に徳之島町で行われた奄美サテライト教室徳之島分室の開講式に出席した時の第一の感想です。徳之島は古くから教育熱心な土地柄で、各界に優秀な人材を多く輩出しています。しかし、離島というハンディのために高校以上の高等教育機関はなく、誰もが高校卒業後は島を離れて学生生活を余儀なくされています。若い内は都会での生活も勉強の一つで経済的な負担以上のものが得られるかも知れませんが、社会人にとっては非常に厳しい学習環境にあります。本格的な勉強をするには通信教育かNHKの放送大学しかなく、ニーズを満たすものではありません。



最近には様々な場所で各種の勉強会が催されるようになり、会場には高い学習意欲を持った大人が大勢詰め掛けています。動機が強制や義務ではないため、大人の「勉強したい」という気持ちは本物であり、若い世代に比べると取組も効果も違います。そのような状況を目にする度に、「徳之島にも社会人向けの高等教育機関があれば」と痛感していました。

そんな中で今年度から奄美サテライト教室徳之島分室が開設され、鹿児島大学の先生の講義が生で受けられるようになりました。これは徳之島の教育史において画期的な出来事です。受講生の知識が深まるという点が重要であることは言うまでもありません。しかし、意義はそれだけにとどまり

ません。日々の仕事に追われる大人が小さな文字と格闘しながら勉強する姿は子供達にも刺激となり、これからの学習生活に必ずやいい影響を与えてくれることでしょう。

今年の講義は前期の総合講義（島嶼論）と後期の文化人類学特論の2科目で、先生方の深い研究に裏打ちされた内容の濃い講義が予定されています。開講式に集まった受講生の表情からは、喜びと期待の大きさを感じ取ることができました。日々の講義内容を着実に理解し、今後の生活にも活かせる部分は活かしていくよう切に願っています。そして奄美サテライト教室徳之島分室が大きな成果を上げ、更に充実した内容になると同時に、多くの受講生が集まる徳之島で最高の人材養成機関へと発展することを期待しています。